

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
項目番号61 ○日常的な外出支援  
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
項目番号63 ○電話や手紙の支援  
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 つどい「宝柳家」

(ユニット名) 一丁目

記入者(管理者)  
氏名 越中 八末代

評価完了日 平成19年 11月 7日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「心地よい空間の共有」	常に職員の目に止まるよう、玄関・スタッフルームに掲示している。つどい10の約束の中に掲げて、毎日復唱している。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時「つどい10の約束」唱和し、日々の実践に向け認識している。	単に読み上げるのみでなく、自己反省をしながら、声に出す事を意識したい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットなどで運営理念を掲げて家族や地域の人々に配布し理解を求めている。	外出レクや買物等実際に行なっていることを報告し、理解を深めるようにしている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物に出かけた時に挨拶をしたり、立ち話をしたりするよう取り組んでいる。	○  夏祭りに参加へを呼びかけるポスターを配布した。来年は、地域の保育所園児に参加してもらえよう計画したい。園児の親の参加を見込みたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館の文化祭に作品を展示したり、敬老会に出席するなど、地域の行事に参加できるよう努めている。物品の購入は地元商店を利用し、顔なじみの関係作りが出来るようにしている。	○  左記以外にも喜久田中学校の職場体験学習や、保育園児との交流、夏祭りに地域のボランティアをお願いしている。生き生きクラブに参加したいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員を通じて介護教室の講師などが出来るとつたえているが、実践は無かった。	○	地域包括支援センターとも連絡を密にして取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んでいるので良い見直しになっている。		見直しの良い機会となっている。職員も刺激を受けている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に宝柳家の取り組みや反省、事故等の報告を行なっている。	○	運営推進会議への理解を深めるため、全員の職員が参加できるよう配慮したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談や報告を怠らず、書類の提出など出来るだけ手渡しするようにしている。	○	生活保護の方を受け入れているため定期的訪問がある
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市や社協に相談している。		様々な制度について理解したい。不明な点はどんどん聞いている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時の申し送りや、資料の掲示等が中心になっているが、常々話題にして、皆で検討して取り組んでいる。専門雑誌購入で啓蒙している。	○	研修への参加が不足しているので、参加を積極的にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		これから丁寧に行なって行きたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	苦情受付第三者委員を選任できていない。検討中。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		定期便が届くと、小遣い持参されたり、電話がかかったりすることが増えている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	アンケートは実施しているが、意見が少ないので、質問項目の見直しをする。ご意見箱への投函がないので、つどい新聞等で呼びかける。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		毎年1回実施している。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		家族対応の通院介助が困難な時、自宅への送迎希望などその都度対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来ている。ユニット間の交流があるため、職員全てが馴染みの関係になっている。</p>		<p>利用者の方々が、行事の時など交流している。</p>
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の通達を掲示し希望者を募ったり、適切な人材を選んで参加させたりしている。希望者には優先して出席させている。</p>		<p>公的機関・福島県GH連絡協議会主催の研修会に参加している。研修報告書に全員が目を通していている。今後も積極的に参加したい。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>郡山市介護支援専門員連絡協議会・福島県GH連絡協議会に加入し、研修・交流・会議に参加している。他市町村のGHとの交流がある。</p>		<p>今後も積極的に参加・交流していきたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩場所がある。休憩時間がきちんと取れるよう、声掛けしている。職員面接を実施している。運営母体での会議出席で、意見を言える場所が確保されている。</p>		<p>定例会・プロセス会議・管理者会議</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己評価表に基づき自分の業務の振り返り、足りない部分を認識し、自己研鑽することで向上につながっている。行事後の反省や感想を報告し全体で話し合い次回につなげている。ヒヤリングを行い、職員の希望や不満等を吸い上げるようにしている。</p>		<p>研修や講演会などの情報を積極的に公開する。購入図書を目に付きやすいところに置き、自由に閲覧や貸し出しが出来るようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の行事の行ない方やお供え物のづくり方、子供の頃の遊びや歌を教えてもらい一緒に楽しんでいる。	昔の行事は大切に、これからも利用者と共に喜びも悲しみも共有していきたい。手先の器用な方から、注連飾りを習いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に通院介助し、情報を共有している。誕生会を家族と共に祝うケースがある。本人が落ち着かない時は家族と電話で話してもらっている。家族の声を聞き落ち着かれることが多い。キーパーソン以外の家族にもつどい新聞等を送って、状況を共有してもらっている。		誕生会に家族の参加を積極的に募っていきたい。また、家族からの相談にはいつでも対応できるようにしている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が参加できるよう、手紙や、電話の取次ぎなど、家族と関わっていけるよう配慮している。	○	家族の負担にならず気軽に参加できるように行事等工夫したい。ケアプランに家族の出番をもっと取り入れていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や若い頃に住んでいた場所へ一緒にいくなどしている。友人が面会に来てくれるよう家族に依頼したり、面会があったときは報告している。		本人が行って見たいところ、会いたい人等積極的に伺い実現できる機会が増えるように取り組みたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に声掛けし、他の利用者と交流できるようにしている。本人が無理のないように気をつけている。共同作品の製作、体操、ぬり絵、ゲームなどのレクリエーション参加。食器拭きなど一緒に行なっている。協力し合っている。		その日の状態に合わせ、無理せず本人の意思を大切にしたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	つどい新聞を送っている。		つどい新聞送付を継続したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、意向の把握に努めている。その日の状態、体調、気分に合わせている。センター方式のシートを活用して、把握した情報を記録し共有している。	無理をしないよう心がけている。家族の負担にならないよう聞き方やタイミングに配慮している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の機会を多くとり、昔の話を聞きだすよう努めている。センター方式のシートを活用して、把握した情報を記録し共有している。家族や、担当ケアマネとも連携している。	センター方式を取り入れ始めたので充実させたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	居室でのんびり過ごしたい方、フロアで皆さんと過ごしたい方それぞれの希望に沿って対応している。バイタル測定、食事量のチェック、排泄のチェックをしている。趣味や得意なものを把握している。	本人が出来るものは積極的にお願いしてやって頂いている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のフロアミーティングを実施しそれに基づき介護計画を作成している。面会時に、家族の要望を聞き取るなどしているが、記録に残していない部分がある。	○ センター方式を取り入れ始めたので充実させたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フロアミーティングで見直しを行い、本人、家族等の意向を反映させているが、定期的な見直し前に変化があれば随時検討し変更して説明している。	○ 会議録の書き方が未熟で十分とはいえないので記録の書き方の勉強会の必要性を感じている。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を生活記録に記入し情報をもとに実践や介護計画の見直しに努めている。生活記録の記入で、ケアプランに沿った援助には、プランの番号を記入している。ケアプランに沿った支援が出来たかどうかケアプランチェックリストをつけている。	○	プランに沿った援助が正確に記録されるよう、生活記録等の記録の書き方を模索中。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の踊りや歌を楽しみにしているので、折を見ては来てもらっている。消防署とは、消防訓練や救急救命訓練を依頼している。公民館は文化祭で、中学校は職場体験受け入れ、保育園児との交流をしている。来てもらうことが中心となっている。		継続してかかわりたい。保育園、学校へ出かけて交流できるようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、福祉用具購入などで他のケアマネに情報をもらうことがある。		福祉用具の購入時業者を呼んで相談にのってもらったりケアマネより最新情報等もらっている。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働しているとはいえない。	○	担当地区の地域包括支援センターが落ち着いてきたので活発に情報交換していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿って受診している。気軽に相談できる体制になっている。		かかりつけ医を無理に変更せず、今までどおりの病院にかかっている人がいる。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の診察が受けられるようになってきた。家族の理解を得ながら勧めている。	○	入居時に専門医での診断が無いままの方が居るので無理の無いところで受診できるように家族へ働きかけているところである。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談担当者と必ず連絡を取り合っている。モニタリングの設定など協力して行なっている。		居室の確保、洗濯物を取りに行ったり家族対応が困難な場合はホーム職員が行う場合もある。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関する指針を作成・提示し同意書ももらっている。		看取りの場所をどこにでと考えているのか、家族の意向調査を実施したい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在の職員のスキルで安全安心を提供できるのはどこまでかとの検討は行なっているがスキルアップに繋がらないでいる。	○	医療面の勉強会が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	在宅復帰の場合は、家族とケアマネとの話し合いに参加し、十分な準備が整ってから退去手続きを行った。		ケアマネや相談員、医師への情報提供や意見交換をしている。家族の代弁者として接する事もある。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーポリシーを作成し掲示している。秘密保持は契約書でしっかり明示している。また、個人情報を生命の危機に関する事項やサービス担当者会議等での使用については入居時に同意書もらっている。		言葉掛けや対応については、注意事項として職員間で申し送りをしている。ミーティング等を通して意識を高めている。不適切な具体例があれば、職員本人に注意している（お互いに気軽に指摘し合える関係作りを心がけている）
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話を多くし、本人の思いや希望を見つけるよう心がけている。生まれ育った地域の方言で話すようにしている。		その人に沿ったケアプランに入れて組み入れている。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては難しい時もあるが、散歩や買物等一人ひとりの希望に沿うように取り組んでいる。		100パーセントの実現に向け努力を続けたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	自分で選んでもらっているが、自分で選べない人には、その人にあった身だしなみを心がけている。訪問理美容を希望されない方は、希望の店で散髪している。		自宅にいてくつろぐ時はいつもパジャマだったという方は、外出以外は、パジャマで過ごしてもらっている。髪を伸ばしたい方には、伸ばしていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。季節のメニューを取り入れて変化をもたせている。味付けを見てもらったり、準備や後片付けを一緒に行なっている。その人の状態によっては、刻み食にしたり、とろみ剤を使用して食べやすくして提供している。</p>		<p>役割、生きがいを持って生活してもらえるよう配慮している。</p>
55	<p>喫煙は場所を決めているが好きな時に吸ってもらっている。おやつも、本人が好きなものを購入して食べている。毎週1回牛乳屋さんが訪問販売に来てくれるので、皆さん好きなものを選んで購入している。買いたいものをお友達同士で相談する姿も見られる。</p>		<p>飲酒の希望は無いが、正月新年会にビールや日本酒、甘酒を提供し喜ばれた。買物は一緒にいく。</p>
56	<p>排泄チェック表を活用し、各自の時間や習慣を把握して誘導等を行なっている。</p>		<p>トイレ誘導の声掛けを工夫してその方にあった声掛けを行なっている。</p>
57	<p>希望があれば希望時に入浴してもらっている。自分から希望されない方は、週2~3回は入浴して頂けるよう声掛け・誘導を行っている。</p>		<p>入浴日を自分で決めている方は希望とおりに入浴してもらっているが、拒否される方への声掛けやタイミングを工夫している。</p>
58	<p>日中体操などしてゆっくり入眠出来るようにしている。就寝時間もその人その時で違っており余裕を持って接している。入居前の生活習慣を尊重している。テレビやラジオなども音量調節に配慮しながら、好きな時に見たり聞いたりしている。</p>		<p>日中はなるべく体操や散歩など実施し、熟睡できるように取り組んでいる。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>簡単な家事や手仕事など得意としている事は行なってもらよう用具を準備したり、場面を設定したりしている。外で体を動かす事が好きな方は草むしりやゴミ拾いなど行っている。文化祭への作品展示や、布巾・雑巾を縫って公民館へ届けたり、面会時家族に差し上げたりして喜ばれている。</p>		<p>誰もがみんなの役に立ちたいとおもいを持っているのでその人に出来る仕事を見つけて職員と一緒に行なっている。手伝ってもらった時は必ず御礼の言葉かけや労いの言葉かけを実行している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物に付き添い支払いはできるだけ本人が行うようにしている。		所持できる人にはお金を所持してもらっている。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買物、散歩は、日常的に行なっているが、ドライブが好きな方は職員の運転する車で出かけ気晴らしになっている。		外出チェック表を記入しているため、職員の外出支援に対する意識が高まった。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	自宅が気になる方には、ドライブを兼ねて行って見たり、実家に行きたいという方には面会時に家族に伝えている。家族の了解をいただき、実家のある地域に出かけることもある。		家族に伝えた事で外出の機会が増えた方がいる。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	本人の希望があればもちろんだが、不安が強くなったときなどは、家族の了解を得て、こちらから電話をして声を聞かせてもらうこともある。手紙を書いてもらって投函する事もある。出来上がったぬり絵を郵送する事もある。出来るだけ名前は自分で書いてもらっている。		手紙や作品が届き家族からとても喜ばれた。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	茶湯の接待を欠かさないようにしている。居室でくつろいで頂けるようにイスを用意している。		玄関は施錠せず気軽に入れるようになっている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないをモットーに取り組んでいる。便いじりやベッドからの転落、転倒の危険があり、家族からは、拘束してといわれるが、ここでは出来ないと説明している。		一度実施してしまうと職員の意識が薄れるようで、何とか工夫して努力している。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		職員が場所を離れなければならない時は、事故防止のため一時的に施錠することもあるが、必要が無くなれば開錠している。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	一部職員に配慮が掛ける場所が見られたので、その都度注意した。また朝礼で注意した
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		能力に応じて行なっている。家族の了解をもらっている。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		ユニットが違ってても情報を共有する。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		講習に参加した者は、講師となり職員に教える
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	救急救命講習や消防訓練を実施するときに地域の方々にも参加してもらうよう計画したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時説明している。傷害保険の加入を勧めている。		リスクを承知して下さり傷害保険に加入される方が増えている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定、毎食時食事量のチェック、随時排泄のチェックをしている。異常があれば再検し記録し、1日の変化がわかるようにしている。		引継ぎ時(朝礼・遅番出勤時・夜勤出勤時の申し送りの徹底を図る。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方せんは個人記録ファイルの一番前に閉じてあり、配薬時や配薬確認時に必ず見るようにしている。また、処方せんの説明をよく読んで理解するよう努めている。不明な時はいつでも薬局や病院に聞けるよう連携している。		薬辞典を置いている。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、各自の時間や習慣を把握している。内服に頼らず、乳製品や水分摂取を進めている。		落ち着きが無い場合に便秘を疑ってみる習慣は出来ている。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔ケア実施している。確認表に記入し、漏れないようにしている。		介助が必要でない方への取り組みがうまくいっていない。訪問歯科検診を全員実施した。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を記録している。調理法は軟らかくしており、場合によっては、刻み食にトロミ剤を使用している。		お気に入りのカップを使用したり、好きなジュースを準備したりその人に合わせて摂取してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある。ポスターの掲示や通達文の掲示を行なって意識を高めている。保健所で行う研修に参加している。		朝礼時の申し送りの徹底を図る。研修参加者を講師にして勉強会を実施した。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食前の手洗い、消毒の励行。まな板、布巾などの消毒。スポンジやたわし、三角コーナーなど夜間に熱湯消毒。食器にかけても安心なアルコールを用意している。		マニュアルがあるが、折に触れ朝礼で申し送っている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるよう玄関先に花を置いたりしている。		玄関が道路に面していないので、植え込みの背丈を低くしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気に気をつけている。 フロアの飾りつけを利用者と一緒に考えている。 冬は和室にコタツを置いている。 照明をこまめに調節している。		風呂場や洗濯場は特に網戸にしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室があり、その時の雰囲気で使い分けられるようになっている。 定期的に食卓の位置を変えて利用者同士がふれあえるようにしている。		スタッフルームや台所が落ち着く方には、職員の側で過ごしてもらっている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族に協力してもらっている。入居時には出来なくても、少しずつ馴染みのものを運んで来てもらっている。その人らしい居室になってきている。</p>		<p>家族の負担にならないよう配慮している。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>こまめに、行なっている。</p>		<p>風呂場や洗濯場は特に網戸にしている</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで手すり設置されている。</p>		<p>身体状況の変化に適宜対応できるようにしたい</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>言葉賭けを慎重に関わっている。一人ひとりのペースを大切に接している。</p>		<p>認知症の理解について勉強を継続しよいサービスにつなげたいと思っている</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>畑を作り利用者と一緒に作物を作って楽しんでいる。農家出身の利用者は、天気の良い日は毎日草むしりをしている。又、農作業に縁のなかった利用者も収穫を楽しみにしている。ベランダからの出入りが出来るので草むしりや畑に行くに便利である。兔を放し飼いに出来楽しんでいる。</p>		<p>栽培する野菜の種類を増やしていきたい。ベランダから見える所に畑を作り、いつでも成長の具合がわかるようにしていきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ② <del>利用者の2/3くらい</del> ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ⑤その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① <del>毎日ある</del> ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① <del>ほぼ全ての利用者が</del> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① <del>ほぼ全ての利用者が</del> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③ <del>利用者の1/3くらいが</del> ④ほとんどいない ⑤その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① <del>ほぼ全ての利用者が</del> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① <del>ほぼ全ての利用者が</del> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① <del>ほぼ全ての家族と</del> ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① <del>ほぼ毎日のように</del> ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

とりあえず心地よい空間を共有する事です。利用者や家族、職員がそれぞれ落ちついて生活できる場所が宝柳家であって欲しいと思います。

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
項目番号61 ○日常的な外出支援  
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
項目番号63 ○電話や手紙の支援  
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 つどい「宝柳家」

(ユニット名) 二丁目

記入者(管理者)  
氏名 越中 八末代

評価完了日 平成19年 10月 30日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「心地よい空間の共有」	常に職員の目に止まるよう、玄関・スタッフルームに掲示している。つどい10の約束の中に掲げて、毎日復唱している。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時「つどい10の約束」唱和し、日々の実践に向け認識している。	単に読み上げるのみでなく、自己反省をしながら、声に出す事を意識したい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットなどで運営理念を掲げて家族や地域の人々に配布し理解を求めている。	外出レクや買物等実際に行なっていることを報告し、理解を深めるようにしている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物に出かけた時に挨拶をしたり、立ち話をしたりするよう取り組んでいる。	○  夏祭りに参加へを呼びかけるポスターを配布した。来年は、地域の保育所園児に参加してもらえよう計画したい。園児の親の参加を見込みたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館の文化祭に作品を展示したり、敬老会に出席するなど、地域の行事に参加できるよう努めている。物品の購入は地元商店を利用し、顔なじみの関係作りが出来るようにしている。	○  左記以外にも喜久田中学校の職場体験学習や、保育園児との交流、夏祭りに地域のボランティアをお願いしている。生き生きクラブに参加したいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員を通じて介護教室の講師などが出来るとつたえているが、実践は無かった。	○	地域包括支援センターとも連絡を密にして取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んでいるので良い見直しになっている。		見直しの良い機会となっている。職員も刺激を受けている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に宝柳家の取り組みや反省、事故等の報告を行なっている。	○	運営推進会議への理解を深めるため、全員の職員が参加できるよう配慮したい。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談や報告を怠らず、書類の提出など出来るだけ手渡しするようにしている。	○	生活保護の方を受け入れているため定期的訪問がある
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市や社協に相談している。		様々な制度について理解したい。不明な点はどんどん聞いている。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時の申し送りや、資料の掲示等が中心になっているが、常々話題にして、皆で検討して取り組んでいる。専門雑誌購入で啓蒙している。	○	研修への参加が不足しているので、参加を積極的にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>これからも丁寧に行なって行きたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>苦情受付第三者委員を選任できていない。検討中。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>定期便が届くと、小遣い持参されたり、電話がかかったりすることが増えている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>アンケートは実施しているが、意見が少ないので、質問項目の見直しをする。ご意見箱への投函がないので、つどい新聞等で呼びかける。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>毎年1回実施している。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>家族対応の通院介助が困難な時、自宅への送迎希望などその都度対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来ている。ユニット間の交流があるため、職員全てが馴染みの関係になっている。</p>		<p>利用者の方々が、行事の時など交流している。</p>
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の通達を掲示し希望者を募ったり、適切な人材を選んで参加させたりしている。希望者には優先して出席させている。</p>		<p>公的機関・福島県GH連絡協議会主催の研修会に参加している。研修報告書に全員が目を通している。今後も積極的に参加したい。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>郡山市介護支援専門員連絡協議会・福島県GH連絡協議会に加入し、研修・交流・会議に参加している。他市町村のGHとの交流がある。</p>		<p>今後も積極的に参加・交流していきたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩場所がある。休憩時間がきちんと取れるよう、声掛けしている。職員面接を実施している。運営母体での会議出席で、意見を言える場所が確保されている。</p>		<p>定例会・プロセス会議・管理者会議</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己評価表に基づき自分の業務の振り返り、足りない部分を認識し、自己研鑽することで向上につながっている。行事後の反省や感想を報告し全体で話し合い次回につなげている。ヒヤリングを行い、職員の希望や不満等を吸い上げるようにしている。</p>		<p>研修や講演会などの情報を積極的に公開する。購入図書を目に付きやすいところに置き、自由に閲覧や貸し出しが出来るようにしている。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の行事の行ない方やお供え物のづくり方、子供の頃の遊びや歌を教えてもらい一緒に楽しんでいる。	昔の行事は大切に、これからも利用者と共に喜びも悲しみも共有していきたい。手先の器用な方から、注連飾りを習いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に通院介助し、情報を共有している。誕生会を家族と共に祝うケースがある。本人が落ち着かない時は家族と電話で話してもらっている。家族の声を聞き落ち着かれることが多い。キーパーソン以外の家族にもつどい新聞等を送って、状況を共有してもらっている。		誕生会に家族の参加を積極的に募っていきたい。また、家族からの相談にはいつでも対応できるようにしている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が参加できるよう、手紙や、電話の取次ぎなど、家族と関わっていけるよう配慮している。	○	家族の負担にならず気軽に参加できるよう行事等工夫したい。ケアプランに家族の出番をもっと取り入れていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や若い頃に住んでいた場所へ一緒にいくなどしている。友人が面会に来てくれるよう家族に依頼したり、面会があったときは報告している。		本人が行って見たいところ、会いたい人等積極的に伺い実現できる機会が増えるように取り組みたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に声掛けし、他の利用者と交流できるようにしている。本人が無理のないように気をつけている。共同作品の製作、体操、ぬり絵、ゲームなどのレクリエーション参加。食器拭きなど一緒に行なっている。協力し合っている。		その日の状態に合わせ、無理せず本人の意思を大切にしたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	つどい新聞を送っている。		つどい新聞送付を継続したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、意向の把握に努めている。その日の状態、体調、気分に合わせている。センター方式のシートを活用して、把握した情報を記録し共有している。	無理をしないよう心がけている。家族の負担にならないよう聞き方やタイミングに配慮している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の機会を多くとり、昔の話を聞きだすよう努めている。センター方式のシートを活用して、把握した情報を記録し共有している。家族や、担当ケアマネとも連携している。	センター方式を取り入れ始めたので充実させたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	居室でのんびり過ごしたい方、フロアで皆さんと過ごしたい方それぞれの希望に沿って対応している。バイタル測定、食事量のチェック、排泄のチェックをしている。趣味や得意なものを把握している。	本人が出来るものは積極的にお願いしてやっている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のフロアミーティングを実施しそれに基づき介護計画を作成している。面会時に、家族の要望を聞き取るなどしているが、記録に残していない部分がある。	○ センター方式を取り入れ始めたので充実させたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フロアミーティングで見直しを行い、本人、家族等の意向を反映させているが、定期的な見直し前に変化があれば随時検討し変更して説明している。	○ 会議録の書き方が未熟で十分とはいえないので記録の書き方の勉強会の必要性を感じている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を生活記録に記入し情報をもとに実践や介護計画の見直しに努めている。生活記録の記入で、ケアプランに沿った援助には、プランの番号を記入している。ケアプランに沿った支援が出来たかどうかケアプランチェックリストをつけている。	○	プランに沿った援助が正確に記録されるよう、生活記録等の記録の書き方を模索中。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の踊りや歌を楽しみにしているので、折を見ては来てもらっている。消防署とは、消防訓練や救急救命訓練を依頼している。公民館は文化祭で、中学校は職場体験受け入れ、保育園児との交流をしている。来てもらうことが中心となっている。		継続してかかわりたい。保育園、学校へ出かけて交流できるようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、福祉用具購入などで他のケアマネに情報をもらうことがある。		福祉用具の購入時業者を呼んで相談にのってもらったりケアマネより最新情報等もらっている。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働しているとはいえない。	○	担当地区の地域包括支援センターが落ち着いてきたので活発に情報交換していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿って受診している。気軽に相談できる体制になっている。		かかりつけ医を無理に変更せず、今までどおりの病院にかかっている人がいる。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の診察が受けられるようになってきた。家族の理解を得ながら勧めている。	○	入居時に専門医での診断が無いままの方が居るので無理の無いところで受診できるように家族へ働きかけているところである。
45 (この行は斜線が入っています)	(この行は斜線が入っています)		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談担当者と必ず連絡を取り合っている。ムンテラの設定など協力して行なっている。		居室の確保、洗濯物を取りに行ったり家族対応が困難な場合はホーム職員が行う場合もある。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関する指針を作成・提示し同意書ももらっている。		看取りの場所をどこにでと考えているのか、家族の意向調査を実施したい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在の職員のスキルで安全安心を提供できるのはどこまでかとの検討は行なっているがスキルアップに繋がらないでいる。	○	医療面の勉強会が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	在宅復帰の場合は、家族とケアマネとの話し合いに参加し、十分な準備が整ってから退去手続きを行った。		ケアマネや相談員、医師への情報提供や意見交換をしている。家族の代弁者として接する事もある。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーポリシーを作成し掲示している。秘密保持は契約書でしっかり明示している。また、個人情報を生命の危機に関する事項やサービス担当者会議等での使用については入居時に同意書もらっている。		言葉掛けや対応については、注意事項として職員間で申し送りをしている。ミーティング等を通して意識を高めている。不適切な具体例があれば、職員本人に注意している（お互いに気軽に指摘し合える関係作りを心がけている）
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話を多くし、本人の思いや希望を見つけるよう心がけている。生まれ育った地域の方言で話すようにしている。		その人に沿ったケアプランに入れて組み入れている。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては難しい時もあるが、散歩や買物等一人ひとりの希望に沿うように取り組んでいる。		100パーセントの実現に向け努力を続けたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	自分で選んでもらっているが、自分で選べない人には、その人にあった身だしなみを心がけている。訪問理美容を希望されない方は、希望の店で散髪している。		自宅にいてくつろぐ時はいつもパジャマだったという方は、外出以外は、パジャマで過ごしてもらっている。髪を伸ばしたい方には、伸ばしていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。季節のメニューを取り入れて変化をもたせている。味付けを見てもらったり、準備や後片付けを一緒に行なっている。その人の状態によっては、刻み食にしたり、とろみ剤を使用して食べやすくして提供している。</p>		<p>役割、生きがいを持って生活してもらえるよう配慮している。</p>
55	<p>喫煙は場所を決めているが好きな時に吸ってもらっている。おやつも、本人が好きなものを購入して食べている。毎週1回牛乳屋さんが訪問販売に来てくれるので、皆さん好きなものを選んで購入している。買いたいものをお友達同士で相談する姿も見られる。</p>		<p>飲酒の希望は無いが、正月新年会にビールや日本酒、甘酒を提供し喜ばれた。買物は一緒にいく。</p>
56	<p>排泄チェック表を活用し、各自の時間や習慣を把握して誘導等を行なっている。</p>		<p>トイレ誘導の声掛けを工夫してその方にあった声掛けを行なっている。</p>
57	<p>希望があれば希望時に入浴してもらっている。自分から希望されない方は、週2~3回は入浴して頂けるよう声掛け・誘導を行っている。</p>		<p>入浴日を自分で決めている方は希望とおりに入浴してもらっているが、拒否される方への声掛けやタイミングを工夫している。</p>
58	<p>日中体操などしてゆっくり入眠出来るようにしている。就寝時間もその人その時で違っており余裕を持って接している。入居前の生活習慣を尊重している。テレビやラジオなども音量調節に配慮しながら、好きな時に見たり聞いたりしている。</p>		<p>日中はなるべく体操や散歩など実施し、熟睡できるように取り組んでいる。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>簡単な家事や手仕事など得意としている事は行なってもらよう用具を準備したり、場面を設定したりしている。外で体を動かす事が好きな方は草むしりやゴミ拾いなど行っている。文化祭への作品展示や、布巾・雑巾を縫って公民館へ届けたり、面会時家族に差し上げたりして喜ばれている。</p>		<p>誰もがみんなの役に立ちたいとおもいを持っているのでその人に出来る仕事を見つけて職員と一緒に行なっている。手伝ってもらった時は必ず御礼の言葉かけや労いの言葉かけを実行している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物に付き添い支払いはできるだけ本人が行うようにしている。		所持できる人にはお金を所持してもらっている。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買物、散歩は、日常的に行なっているが、ドライブが好きな方は職員の運転する車で出かけ気晴らしになっている。		外出チェック表を記入しているため、職員の外出支援に対する意識が高まった。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	自宅が気になる方には、ドライブを兼ねて行って見たり、実家に行きたいという方には面会時に家族に伝えている。家族の了解をいただき、実家のある地域に出かけることもある。		家族に伝えた事で外出の機会が増えた方がいる。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	本人の希望があればもちろんだが、不安が強くなったときなどは、家族の了解を得て、こちらから電話をして声を聞かせてもらうこともある。手紙を書いてもらって投函する事もある。出来上がったぬり絵を郵送する事もある。出来るだけ名前は自分で書いてもらっている。		手紙や作品が届き家族からとても喜ばれた。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	茶湯の接待を欠かさないようにしている。居室でくつろいで頂けるようにイスを用意している。		玄関は施錠せず気軽に入れるようになっている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないをモットーに取り組んでいる。便いじりやベッドからの転落、転倒の危険があり、家族からは、拘束してといわれるが、ここでは出来ないと説明している。		一度実施してしまうと職員の意識が薄れるようで、何とか工夫して努力している。




項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>職員が場所を離れなければならない時は、事故防止のため一時的に施錠することもあるが、必要が無くなれば開錠している。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>一部職員に配慮が掛ける場所が見られたので、その都度注意した。また朝礼で注意した</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>能力に応じて行なっている。家族の了解をもらっている。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>ユニットが違っていても情報を共有する。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>講習に参加した者は、講師となり職員に教える</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>救急救命講習や消防訓練を実施するときに地域の方々にも参加してもらおうよう計画したい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時説明している。傷害保険の加入を勧めている。		リスクを承知して下さり傷害保険に加入される方が増えている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定、毎食時食事量のチェック、随時排泄のチェックをしている。異常があれば再検し記録し、1日の変化がわかるようにしている。		引継ぎ時(朝礼・遅番出勤時・夜勤出勤時の申し送りの徹底を図る。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方せんは個人記録ファイルの一番前に閉じてあり、配薬時や配薬確認時に必ず見るようにしている。また、処方せんの説明をよく読んで理解するよう努めている。不明な時はいつでも薬局や病院に聞けるよう連携している。		薬辞典を置いている。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、各自の時間や習慣を把握している。内服に頼らず、乳製品や水分摂取を進めている。		落ち着きが無い場合に便秘を疑ってみる習慣は出来ている。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔ケア実施している。確認表に記入し、漏れないようにしている。		介助が必要でない方への取り組みがうまくいっていない。訪問歯科検診を全員実施した。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を記録している。調理法は軟らかくしており、場合によっては、刻み食にトロミ剤を使用している。		お気に入りのカップを使用したり、好きなジュースを準備したりその人に合わせて摂取してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある。ポスターの掲示や通達文の掲示を行なって意識を高めている。保健所で行う研修に参加している。		朝礼時の申し送りの徹底を図る。研修参加者を講師にして勉強会を実施した。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食前の手洗い、消毒の励行。まな板、布巾などの消毒。スポンジやたわし、三角コーナーなど夜間に熱湯消毒。食器にかけても安心なアルコールを用意している。		マニュアルがあるが、折に触れ朝礼で申し送っている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるよう玄関先に花を置いたりしている。		玄関が道路に面していないので、植え込みの背丈を低くしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気に気をつけている。 フロアの飾りつけを利用者と一緒に考えている。 冬は和室にコタツを置いている。 照明をこまめに調節している。		風呂場や洗濯場は特に網戸にしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室があり、その時の雰囲気で使い分けられるようになっている。 定期的に食卓の位置を変えて利用者同士がふれあえるようにしている。		スタッフルームや台所が落ち着く方には、職員の側で過ごしてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらっている。入居時には出来な くても、少しずつ馴染みのものを運んで来ても らっている。その人らしい居室になってきてい る。		家族の負担にならないよう配慮している。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	こまめに、行なっている。		風呂場や洗濯場は特に網戸にしている
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリーで手すり設置されている。		身体状況の変化に適宜対応できるようにしたい
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	言葉賭けを慎重に関わっている。一人ひとりの ペースを大切に接している。		認知症の理解について勉強を継続しよいサービス につなげたいと思っている
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑で利用者と一緒に作物を作り、収穫を楽しんで いる。男性利用者には、良い力仕事になってい る。また、ベランダで花を栽培し利用者が水遣り をしている。 ベランダに出てまわりの風景を楽しんでいる。		栽培する花の種類や作物を増やしていきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者2/3くらいが ③利用者1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない ⑤その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者2/3くらいが ③利用者1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者2/3くらいが ③利用者1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者2/3くらいが ③利用者1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者2/3くらいが ③利用者1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者2/3くらいが ③利用者1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族2/3くらいと ③家族1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

とりあえず心地よい空間を共有する事です。利用者や家族、職員がそれぞれ落ちついて生活できる場所が宝柳家であって欲しいと思います。